



ヘビにおしりはあるの、しっぽはどこからなの

おしりがあるのは、ほ乳類^{にゅうるい}だけ

ここがおしり、と区別^{くべつ}がつく動物^{どうぶつ}は、お乳^{ちち}で子ども^こを育て^{そだ}て、ほ乳動物^{にゅうどうぶつ}だけです。ほ乳動物^{にゅうどうぶつ}は、人間^{にんげん}以外^{がい}はほとんど、すばやく4本足^{よんぽんあし}で歩いたり、走ったりします。ほ乳動物^{にゅうどうぶつ}は、4本足^{よんぽんあし}で立ったとき、後ろ足^{うしろあし}は体^{からだ}の真下^{ました}についています。走ったり歩いたりするために、この後ろ足^{うしろあし}全体^{ぜんたい}を、ぐんと後ろ^{うしろ}や前^{まえ}に動か^{うご}かす筋肉^{きんにく}が、おしりのふくらみになっています。

2本足^{にほんあし}で立って歩く人間^{にんげん}も、足全体^{あしぜんたい}を動か^{うご}かす筋肉^{きんにく}が、おしりについています。

は虫類^{ちゅうるい}のトカゲやワニは、体^{からだ}のわきのところに、後ろ足^{うしろあし}がついています。この後ろ足^{うしろあし}は、体^{からだ}の大きさに比べると、長さ^{なが}は短^{みじか}く、小さくて、その足^{あし}で走るスピードは、あまり速^{はや}くありません。足^{あし}を動か^{うご}かす筋肉^{きんにく}が、少し^{すこ}しかついていませんから、おしりのようなふくらみもありません。ヘビには足^{あし}もないのですから、おしりもありません。

ヘビのしっぽは、おしりのあなより後ろ^{うしろ}の部分^{ぶぶん}

ヘビの体^{からだ}は、人間^{にんげん}の胸^{むね}にあるようなろっ骨^{こつ}がなく、首^{くび}から下の全体^{したぜんたい}が、長い背骨^{ながせぼね}につながっています。体^{からだ}の後ろ^{うしろ}のほうにある、うんちを出すあな「肛門^{こうもん}」の近く^{ちか}に、退化^{たいか}した後ろ足^{うしろあし}の小さい骨^{ほね}が残^{のこ}っています。この肛門^{こうもん}より後ろ^{うしろ}の部分^{ぶぶん}が、しっぽになります。ヘビのメスは、しっぽ^{みじか}が短^{きゆう}く、急^{ほそ}に細^{ほそ}くなっています。オスは、しっぽ^{ぶぶん}の部分^{なが}が長^{ふと}く太^{ふと}いので、しっぽ^{ぶぶん}の部分^{みわ}で、オス、メスの見分け^{みわけ}ができます。

(監修・今泉 忠明)

